

授業科目名	パフォーミングアーツ概論	担当教員	深澤 南土実
必修の区分	選択必修		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第1クォーター		
講義内容	この授業の目的は、「パフォーミングアーツ」についての視野を広げながら、その諸事例に生命的な脈絡を見出すことで、このアーツ（技芸）に関する基礎的な理解を得ることです。授業の内容は、主に舞台芸術のダンスを中心に扱い、身体文化史や現代のテクノロジー（AI・ロボット）、音楽、美術との関わりにも触れながら進めます。		
到達目標	ある表現が「パフォーミングアーツ」と言われるに際してのポイントや、諸事例の個性について説こうとする意欲を持つことができる		
授業計画	01：オリエンテーション 02：身体文化とパフォーミングアーツ 03：西洋を中心とした身体文化とパフォーミングアーツ 1 04：西洋を中心とした身体文化とパフォーミングアーツ 2 05：日本の身体文化とパフォーミングアーツ 1 06：ゲスト講師（余越保子氏）によるレクチャー 07：日本の身体文化とパフォーミングアーツ 2 08：テクノロジーと身体（AI・ロボット） 09：パフォーミングアーツと映像 10：パフォーミングアーツにおけるコラボレーション 11：アートと身体 12：復習と到達度チェック（授業内試験）		
事前・事後学習	授業毎に指示します（事前・事後学習として週2時間程度）		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』（平凡社）、ボナヴェントウラ・ルペルティ『日本の舞台芸術における身体—死と生、人形と人工体』（晃洋書房）、徳井直生『創るためのAI：機械と創造性のはてしない物語』（ビー・エヌ・エヌ）ほか、適宜紹介します		
成績評価の基準	平常点 60%：毎回の授業中の様子や発言、およびリフレクションシートの質をもとに判定 平常試験 40%：授業内試験		
履修上の注意 履修要件	初回のオリエンテーション時に授業の進め方や成績評価などの説明をします		

実践的教育	該当しない
備考欄	2021年～2024年度入学生：配当年次1年